



企業紹介

荒川化学工業株式会社

中 村 喜 光*

会社概要

| | |
|------|---|
| 社名 | 荒川化学工業株式会社 |
| 代表者 | 取締役社長 高橋 忍 |
| 創業 | 明治9年(1876年) |
| 設立 | 昭和6年1月(1931年) |
| 資本金 | 4億1800万円 |
| 従業員 | 510名 |
| 売上高 | 396億円(昭和60年度) |
| 本社 | 大阪市東区平野町1丁目21番地 |
| 支店等 | 東京, 名古屋, 富士, 札幌, 福岡 |
| 研究所 | 研究部(大阪市鶴見区) 商品開発部(大阪市城東区) |
| 工場 | 大阪, 富士, 水島, 釧路, 徳島, 鶴崎, 鹿島 |
| 事業内容 | 製紙, ゴム, 塗料, インキ, 粘着剤, 建材, 段ボール, 食品, 繊維, 衛生材料等の主要原料化学品の 製造および販売 |

はじめに

化学技術の発展をみざす人間には夢があります。当社はロジン系樹脂や合成ポリマーなどのメーカーですので、必然的にその夢は石油系原料から合成化学的方法により各種の天然樹脂が合成できないか、水に溶ける合成ポリマーがあるなら水を吸う有用なポリマーは作れないか等等。

それらを実現したのが当社の製品である脂環族飽和炭化水素樹脂と高吸水性樹脂であります。前者は石油樹脂を水素化してえられる無色透明無臭の樹脂で品質的に従来のテルペン樹脂を完全に凌駕しました。そしてこの樹脂は主に

粘着剤用としての需要が極めて大きく、昨年生産設備を増強したにも拘わらずフル稼動に近い状況です。また後者は自重の800倍以上の水を吸水するポリマーでおむつ、ナプキンなどの生理衛生用品に使用されて急速に需要が伸びており、昨年に引続き本年1月にも設備を増強するとともに他に例を見ない独特のプロセスを確立しました。

1. 当社のなりたちと発展

ところで当社は初めから合成化学メーカーとして発展したわけではありません。

当社は明治9年に創業して以来今年で110周年を迎えます。その間独自の技術によってネーバルストアーズ(松脂関連製品)と呼ばれる特殊な化学分野を開拓し、松脂の荒川といわれた時代が長い間続いていました。これらの松脂製品は今でも製紙、合成ゴム、塗料、印刷インキ、接着剤、食品、建材などの広汎な業界で使用されています。しかもこれらの製品は各業界で極めて高い市場占有率を誇り、当社の全製品の約半分を占めております。

しかし、近年になって当社は伝統のネーバルストアーズを基礎に合成高分子化学の分野に進出し事業を拡大しつつあります。ポリアクリルアミド、アクリル系共重合体、マレイン酸共重合体などの水溶性ポリマー、アルキド樹脂、フェノール樹脂、ポリエステル樹脂、ポリウレタン樹脂のほか冒頭に述べた脂環族飽和炭化水素樹脂や高吸水性樹脂の生産販売がその例です。最近では光硬化型樹脂の開発を軌道に乗せております。

このように多岐にわたる製品を販売している当社は各業界の需要に応えるために日本各地に工場を有し製品の安定供給に努めております。また広く海外の一流企業にも優れた製品を輸出

*中村喜光(Yoshimitsu NAKAMURA), 荒川化学工業株式会社, 常務取締役企画開発室長, 大阪府立大学, 応用化学

しています。

当社の製品はロジンまたは石油化学原料を種
種加工してえられる工業用中間原料であり、使
用先も化学系メーカーが多く一般に馴染みがう
すいのですが、最終的に紙、印刷物、塗料、プ
ラスチック製品、ゴム製品、接着剤、粘着テー
プ等の中に含まれており、また紙おむつ、チュ
ーインガム、床タイル、繊維製品等にも使用さ
れていますので、形を変えて身近な日用品につ
かわれております。

(1) ロジンおよびロジン系製品

ロジンは生育している松の生松脂から揮発性
のテレピン油を除いてえられる天然樹脂の一種
であります。ロジンを構成する樹脂酸の主成分
はアピエチン酸でヒドロフェナンスレン核をも
ち共役二重結合と一塩基性カルボン酸を有する
ジテルペンです。この二重結合とカルボキシル
基の反応性を利用してさまざまな誘導体を導く
ことができます。その例として水素化ロジン、
不均化ロジン、重合ロジン、酸化ロジン、ロジ
ン石鹼、ロジンの多価アルコールエステル、ロ
ジン変性マレイン酸樹脂、ロジン変性フェノ
ール樹脂、ロジンオイル等十指に余る誘導体や変
性物があげられます。これらから得られる製品
として製紙用サイズ剤（インキのにじみ止め薬
品のことで新聞紙やチリ紙以外の全ての紙には
サイズ剤が添加されています）、合成ゴム重合
乳化剤用樹脂、塗料インキ用樹脂、粘着接着剤
用樹脂、チューインガム用樹脂および床タイル
用樹脂などがあり、永年にわたり製造販売して
おります。

(2) 合成ポリマー系製品

i. 重合系水溶性ポリマー

アクリル系、無水マレイン酸共重合体系など
の水溶性ポリマーは取引業界の関係もあり製紙
薬品として使用されるものが多く、紙の物理的
性質を向上させる紙力増強剤、情報産業紙用加
工剤、サイズ剤などがあります。このほかガム
テープ用その他各種接着剤等がその用途です。

ii. 縮合系樹脂

フェノール樹脂は現在脚光を浴びているエレ
クトロニクス関連分野の需要が目ざましく、古
くして新しい樹脂として各種の変性改良品を強

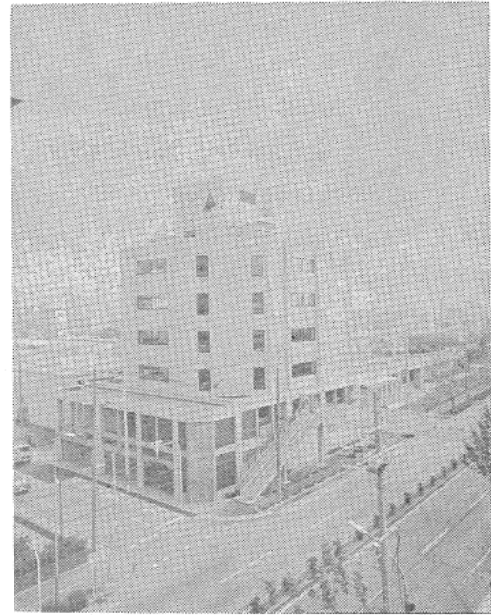


写真1 研究部



写真2 商品開発部

力に開発しています。このほか塗料用アルキド
樹脂やポリエステル樹脂を生産販売してしま
す。

(3) 研究所の運営

大阪には新製品開発の推進力となる研究所が
あり、全社員の20%に相当する人員を擁して時
代を先取りした新技術の研鑽に努めておりま
す。研究所は新規技術、新規製品の開発研究を
目的とする研究部と、既存製品の改良、重点開
発商品の技術フォローなどを任務とする商品開
発部とから成り立っております。

企業体質を変えるような大型新規テーマの採
用など研究の大方針は研究開発会議で審議決定
されます。この会議には社長以下全役員と企画

開発室，研究所の幹部が出席して行われます。このほかに社長以下経営首脳陣と研究グループ長とで構成する研究進捗報告会が定期的開催されます。さらに特定テーマごとに研究担当者と企画開発室または営業部との間でテーマ会議が毎月または随時開催され，研究開発上の具体的問題点について討議されます。

いずれにしても当社の研究開発は全社を挙げて取り組んでおり，全社員の英知を集めて会社の将来を保障する独自技術の開発，確立，発展に日夜心血を注いでいます。当社のような中堅企業は独自の技術を強力に開発する以外に生きる道がありません。

おわりに

当社は今までは伝統と蓄積された技術の応用

により発展して参りましたが，これからはハイテク時代を迎え独創的な技術を開発し新規市場を開拓していかなければなりません。すでに新規分野としてバイオテクノロジー，新素材関連技術の開発を具体的に進めつつあります。

会社の経営方針として開発型企業への完全脱皮を掲げ昭和59年から始まる3カ年計画を実施中であり，今年がその最終年であります。その間技術面における施策として研究所建物を増築し，研究設備の拡充，研究員の新規採用人数の増加，社員基礎教育の徹底，社内技術情報網の確立を以前にも増して強力に推進しております。つまるところ若手技術者の成長こそが会社発展の鍵を握るものと信じております。

常に新しい技術を開発して より広い分野を開拓

合成高分子

製紙用薬品，粘・接着剤用樹脂
食品用樹脂，塗料・インキ用樹脂
高吸水性樹脂，合成ゴム用乳化剤

ネーバルストアーズ



荒川化学工業株式会社

本社：大阪市東区平野町1丁目21番地 ☎541
電話 (06) 209-8500 ダイヤルイン 代表
研究所：大阪市城東区今福南3丁目4番33号 ☎536
電話 (06) 9 3 9-1 3 2 1 代表